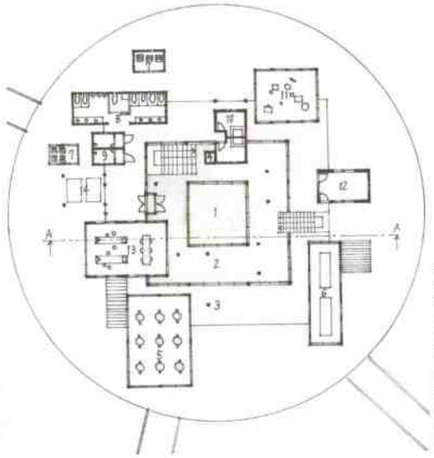
# 魅力 練り上がる まち

古より自然の摂理によって生まれた砂丘
この場所を舞台に450年以上続く子供の誕生を祝う祭り
海辺に暮らす人々の命を守る防災公園
日本人と外国人が手を取り合った生活

そんな地域の魅力を「どうそ」と練り上げ地区センターとする。
祭りの中で人々の一体感を生み出す歓喜と熱気あふれる「練り」のように

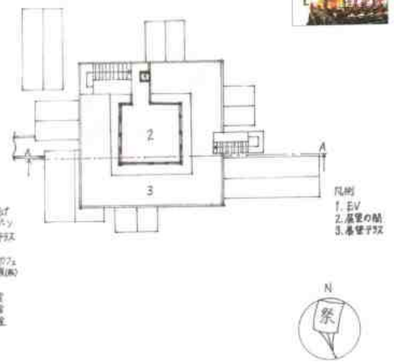
資源を練って恵みをもたらし、文化を練って人々をつなぐ。
歴史を紡ぎ、安全を練り上げることで安心を生み出し暮らしを支える
練り上げられた暮らしは、豊かに続いていく

魅力を練ることで生まれる「どうぞ」が連鎖する持続可能な暮らしの提案



配置図兼1階平面図 Scale 1:300

2階平面図 Scale 1:300



3階平面図 Scale 1:300

A-A 断面図 Scale 1:200

## 01. 敷地と課題：魅力が分断されたまち ～中田島町～

中田島町は、浜松市の海岸沿いに位置する。豊かな自然環境、観光資源、伝統文化といった魅力がありながら、個々の魅力同士のつながりがなく、分断されている。

魅力と課題1. 中田島砂丘(自然環境と観光・防災のバランス)

防潮堤による観光や防災自然環境とのバランスが課題となっている。

自然が作り出す中田島砂丘

分断する防潮堤

魅力と課題2. 浜松まつり(伝統の継承が危ぶまれる)

人々がつないできた伝統の継承が危ぶまれている。

450年以上続く市民まつり

○御殿屋台の歴史

用途によって形態が変化してきた

魅力と課題3. 遠州灘海浜公園(利用されない避難マウンド)

景観、閉鎖としており、地域住民の利用不足が課題となっている。

憩いの場と防災の要の2つの顔を持つ

地域の人が交流する

## 02. 防災の不安

液状化 被害予測

(現状)

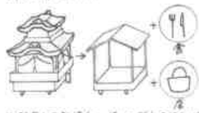
- 周囲に広敷地置のできる場所がなく、一時避難場所もマウンドのみである。
- 一時避難場所や主要な道路が液状化する可能性が高く崩壊してしまった場合、避難をすることができない。

## 03. 浜松祭りと練り

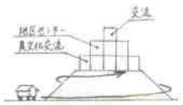
老若男女が一体感を生み出しながら、温かな市民性を醸成し、磨き、次世代へ受け継ぐ。

## 04-1 魅力を練ることで生まれる地区センター

## 04-2 練りのカタチ




御殿屋台を細分化し、様々な機能を持たせる。

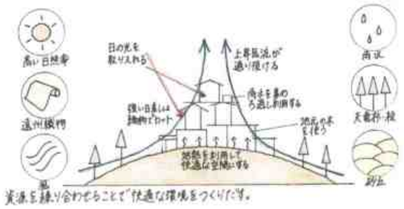



層を積み上げ、それぞれに機能を持たせる。

御殿屋台を中心に集めることで練りが生まれる。

個々の魅力を練り、地区センターとして融成する。

## 05. 資源を練る



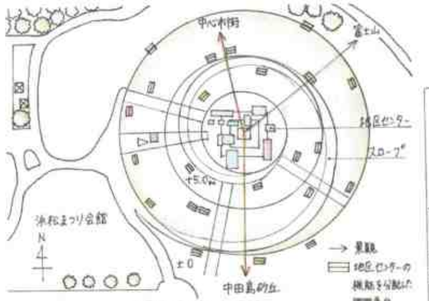

資源を練り合わせることで快適な環境をつくりだす。

## 06. 文化を練る

御殿屋台をイメージした形や風と織物の工房で文化を体験する。

体験で興味を持った者門へと文化が継承される。

継承された文化が練り上がり新たな文化の形をつくる。




配置図 Scale 1:500

現地調査　　避難マウンドからの景色

## 07. 御殿屋台を練る

町に魅力を届ける

地域の魅力を御殿屋台へ練り入れ、町中へ広める。

店屋台：町を練るチャレンジショップ

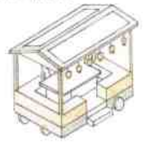
遊び屋台：子どもを養う遊び場

食屋台：人をつなぐ異文化食堂

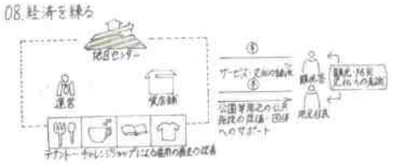
学び屋台：文化を練る日本語教室

健康屋台：命を守る医療

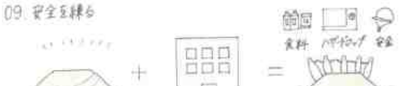
交流屋台：人々が集う居間



## 08. 経済を練る

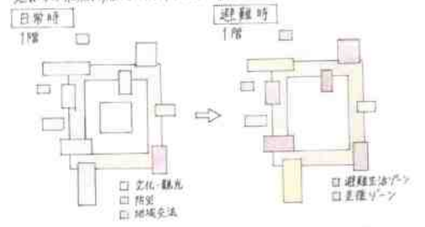



## 09. 安全を練る




活かされていないマウンドの頂上に地区センターを建てることで日常に防災の機能・意識が生まれる。

災害時の状況に応じたフレキシブルな利用が可能なゾーニング計画

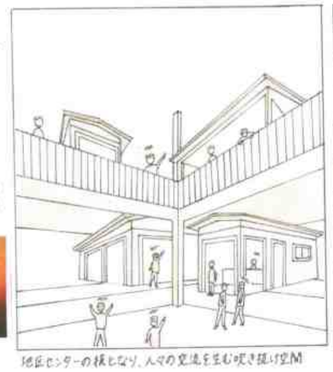



文化・観光、防災、地域交流の3つがランダムに配置している。

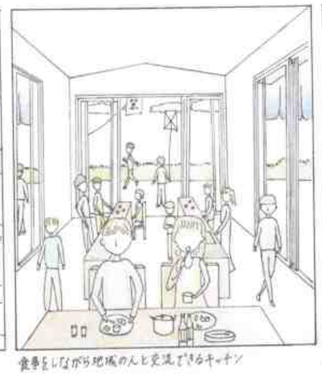
平屋外空間

避難生活ゾーンと支援ゾーンに分かれ、機能が変わる。

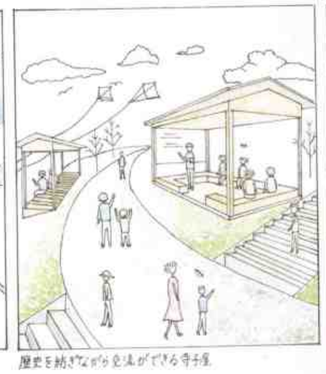
ex) 地域カフェ→焼き出しスペース
キッズルーム→避難所



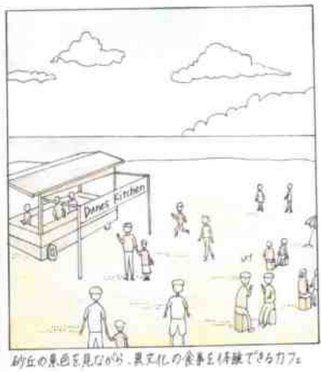
地区センターの核となり、人々の交流を生む吹き抜け空間



食事をしながら地域の人と交流できるキッチン



歴史を紡ぎながら交流ができる寺子屋




砂丘の景色を見ながら、異文化の食事を体験できるカフェ